

薬剤部 DI ニュース

医療安全管理について(シリーズ14)

～ もし隔壁開通を忘れてたら ～

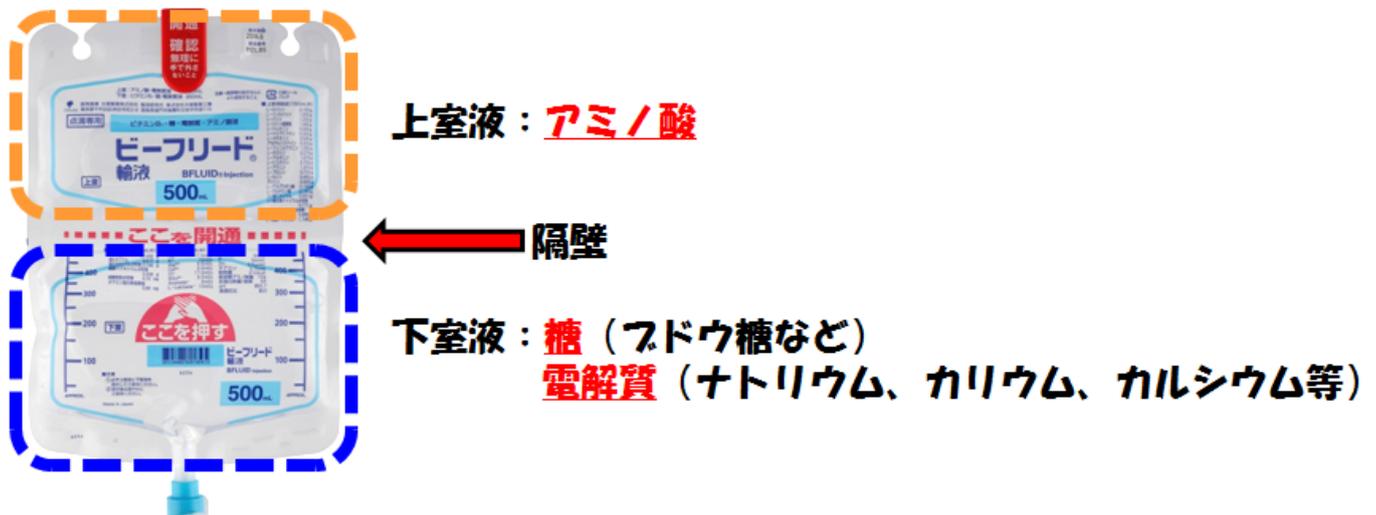
一部の輸液に見られる「隔壁」とは、保管の際に混ざりあっていると相互作用等により薬効が無くなるが、投与する際には一緒に投与することが望まれる成分同士を、保管時は分け、使用時は輸液の上部より圧をかけることで開通・混合を可能にした技術です。では、この隔壁を開通せずに輸液を投与するとどうなるのでしょうか。今回は再度この内容についてご案内いたします。

当院採用の隔壁のある製剤



なぜ隔壁があるのか？

ブドウ糖とアミノ酸を混合しておくとし、時間がたつにつれてメイラード反応を起こし、褐色に着色し効果が低下してしまいます。したがって、隔壁開通は投与直前にする必要があります。他にはビタミン剤の相互作用もあります。



隔壁の開通を忘れたらどうなるのか？

隔壁の開通を忘れた場合、下室液のみ投与されます。下室に何が充填されているかによって、仮に隔壁開通を行わずに投与してしまった場合の経過観察のポイントが変わってきます。

	ビーフリード	ネオパレン	アミノトリパ	ピーエヌツイン
上室液	アミノ酸	アミノ酸	アミノ酸	糖質 電解質
下室液	糖質 電解質 ビタミンB1	糖質 電解質 ビタミンB1	糖質 電解質	アミノ酸

(下室にはルートへの接続口がある)

●ビーフリード、ネオパレン、アミノトリパ

→ **高血糖**注意

●ピーエヌツイン

→ 糖質が一切入らないので**低血糖**注意

●アミノトリパ

→ 下室にビタミンB1を含んでいないため**重篤なアシドーシス**に注意

投与の途中で隔壁の開通をしていないに気が付いたら

仮に投与の途中で隔壁の開通をしていないに気が付いた際にはどうしたらいいのでしょうか？「気が付いた時点で隔壁を開通する」といった選択肢が頭をよぎると思いますが、対応としては次に流れになります。

①まず投与を中止

②主治医へ報告

→ 中止指示の場合にはそのまま中止

→ 続行指示の場合には**新しい製剤を隔壁開通して使用**する

くれぐれも投与の途中で隔壁開通は行わないでください。